

第29回千葉県郡市ブロック代表選手権4年生大会 戦評

準決勝(第一試合)【市川KIFC VS フッチSC】

市川を拠点とする両チームの対戦は、11/29(日)鎌ヶ谷市陸上競技場にて10:00キックオフ。序盤は、お互いにロングボールを多用してセカンドボールを激しく奪い合う攻防が続いた。セカンドボールは、フッチSCが拾うことが多かったが、市川KIFCも【34番】堀君を中心としたディフェンス陣が落ち着いた対応で、フィニッシュまで至らせなかった。その様な攻防が続く中、市川KIFCに流れが傾いてきた7分、フッチSC陣内(左側ペナルティーアーク付近)で混戦した状況からこぼれきたボールを、市川KIFC【58番】森君が素早い反応で奪い、そのままスピードに乗った(ドリブル)突破から先制点を奪った。その後も、先制点を奪った市川KIFCが、ゲームの主導権を握り、13分、カウンターから【33番】古谷君のスルーパスを受けた【58番】森君が再び追加点を上げリードを広げられた。リードを広げられたフッチSCは、これまでグラウンド中央からの攻撃が目立っていたが、徐々に両サイドを使うことが増え、ゲームを優位に進められるようになる。17分、CKから【18番】石坂君のヘディングシュートはポストの外、18分、ペナルティーエリア付近で得たFKを【9番】西牟田君が直接ゴールを狙うもGK正面と、決定機を作れたが得点までは至らず、前半は2-0で市川KIFCがリードして終了した。後半に入り、フッチSCが逆襲に転じる。22分、市川KIFC陣内右サイドスローインから抜け出した【10番】渡邊君のシュートはポストの上、29分、中央から【4番】水野君のスルーパスを受けた【10番】渡邊君のシュートはGK正面、31分、【4番】水野君からのパスを受けた【9番】西牟田君のミドルシュートはポストの上と幾度なくフッチSCが攻め込む展開が続いた。フッチSCは、前半とは違いロングボール頼みではなく、地上でプレーする場面が多くなった。その中で、MF【4番】水野君、【8番】岡田君、【10番】渡邊君の個人のキープ力とゲームメイクから、右サイドに展開して、【9番】西牟田君の突破やクロスからゴール前へ進入する場面を多く演出していた。反対に、市川KIFCは、自陣でプレーする機会が多かったもの、フッチSCの攻撃を、前半同様、【34番】堀君を中心としたディフェンス陣が、集中力を切らさず、個々のマッチUpも身体を張った対応でしっかりと受け止めていた。また、時折見られるカウンターから、2トップ【58番】森君、【49番】石井君のスピード豊かなプレーによりチャンスも作られていたので、次の1点がいつ(時間帯)・どちらのチームが奪うかにより、試合の勝敗を左右される展開になってきた。点差が動いたのは39分、フッチSCが、中央のアタッキングエリアから、【9番】西牟田君のラストパスを受けた【10番】渡邊君がシュート、GKからこぼれたボールを【8番】岡田君が押し込みリードを縮められた。しかし、その後のフッチSCの巻き返しを期待したかったが、残り時間もなく2-1で終了。市川KIFCが激戦に勝利し、決勝戦に進出した。

(記)第4種委員会 第3ブロック委員 村井 一俊

第29回千葉県ブロック代表少年サッカー選手権4年生大会 戦評

日 時 平成21年11月29日 11時00分 キックオフ
場 所 鎌ヶ谷市陸上競技場 ピッチ 良 天候 晴れ ラウンド 準決勝 第2試合
対 戦 TOPSIDEアウルフットボールクラブ VS きみつFC

(戦評)

好天にも恵まれた中で、準決勝第2試合、TOPSIDEアウルフットボールクラブ（以下アウル）ときみつFC（以下きみつ）が対戦した。

両チームとも、立ち上がりからスピーディな試合展開でゲームが進む中、開始早々、前半2分にゴール前の混戦の中、こぼれ球をアウル57番笹谷君がシュート、見事に先制点を奪った。対するきみつは、5分に12番尾崎君が中央から中盤でボールを奪い、ドリブル突破から右サイドにボールを展開、センターリングが入るもののゴールを奪うことはできなかった。同じく5分、アウルも中央でボールを素早いカウンター攻撃、57番笹谷君がキーパーと1対1になるが、惜しくもゴールに結びつかなかった。9分には、きみつの10番釧持君が左サイド中央からドリブルで仕掛け、ゴール前まで行くが相手DFの守備もあり惜しくもシュートにはいたらなかった。その後も、両チーム一進一退の攻防が続く、16分にはアウル66番宮崎君がペナルティ内をドリブルで突破、シュートを放つがキーパーの正面となり得点に至ることはなかった。前半終了のホイッスルが鳴り1対0でアウルがリードのまま前半が終了した。前半を振り返ると、両チームとも個人技を生かした展開を行っていたことが印象に残った。アウルはドリブルやパスを多用したゲーム展開、一方きみつもドリブルを中央から積極的に仕掛けてサイドに展開したり、ゴール中央を突破したりと両チームとも個人技を生かしながら攻撃していく戦術が目にとまった。

後半開始のホイッスルがなり、立ち上がりの1分、アウルはゴール前のシュートが混戦となり、こぼれてきたボールを43番山田君がシュート、見事にゴールとなり追加点を奪うことに成功した。その後も後半10分までは、アウルが相手陣内でのボール支配率も高く、中盤からのパスワークから前線にスルーパスや両サイドへの展開が随所に見られた。惜しくもゴールに結びつくことはできなかったが、アウルらしいサッカーができたのではないか。粘り強い守備で相手に得点を奪わせなかったきみつも、後半11分過ぎにようやく、反撃のきっかけをつかみ、10番釧持君の左サイドからのドリブル突破からセンターリング、惜しくも味方選手に合わずノーゴールとなかったが、13分には、中央から左サイドに展開、10番釧持君中央に切れ込んでシュート、惜しくもキーパーの正面となってしまった。立て続けの攻撃からしだいにリズムをつかみかけたきみつだったが、アウルDF陣も粘り強い守備が光りなかなかに得点を奪うことができずに試合終了のホイッスル。2対0で見事にアウルが決勝にコマを進めた。両チームとも一人ひとりが積極的にドリブルやパスなどで仕掛け、将来が楽しみな選手たちを観戦することができた。

県技術委員 堀口憲司 記

第 29 回千葉県ブロック代表少年サッカー選手権 4 年生大会決勝戦選評

上條 一雄

市川K・I F C v s T O P S I D E アウルF C

前半 0 : 0 後半 0 : 0 延長前半 1 : 1 延長後半 0 : 0 P K 3 : 2

平成 2 1 年 1 1 月 2 9 日 (日) 1 3 : 0 0 T O P S I D E アウルF C のキックオフで試合が始まりました。

前半立ち上がりは、アウルF C がドリブルを中心にチームでボールを運びながらペースを握っていたが 1 0 分過ぎからはK・I F C の守備で相手攻撃に対応してきて五分五分の展開になって 0 : 0 で前半終了。

後半 7 : 0 0 アウルF C がこの試合最大のチャンスが左サイドをドリブルで崩したがK・I F C G K のポジショニングが良かったので得点にならなかった。この攻撃がきっかけになり、お互いのチームはヒートアップしダイナミックなゲーム展開になっていたが、やはり決勝戦まで勝ちあがってきた両チームのディフェンスが良くそのまま後半終了。

延長前半、アウルF C キックオフで始まりそのまま中央を突破しこの試合初めての得点はアウルF C が先制。延長前半終了間際にK・I F C のG K がC K をキャッチし前線にパントキックがそのままカウンターになりK・I F C が同点ゴール。

延長後半、お互い激しい攻防があったがそのまま終了。P K 戦で 3 : 2 で市川K・I F C が勝利し優勝。

両チームの特徴が出ていて選手全員の力は発揮されていたと思います。また、チーム力が拮抗している対戦で試合開始直後と終了直前に得点、失点の可能性が高いと再認識させられる試合でした。現段階 (4 年生) で基本技術が体得されている両チーム選手が半年後の千葉県 5 年生選手権でどのようなチームに変貌するか今から楽しみです。